

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500096		
法人名	社会福祉法人本荘久寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護しようぶの郷		
所在地	秋田県由利本荘市石脇字尾花沢57-22		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	平成27年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

冷暖房設備等、ハード面がしっかりしており、一年中過ごしやすい環境である。一般浴槽には、玉川温泉の北投石が入れられており、とても好評です。また、ホーム内に閉じこもりにならないよう、併設事業所と合同行事で交流し、楽しんで頂く機会を設けている。地域密着型施設として、地域や町内行事等に参加し、交流を図ることが出来るよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業施設が並ぶ国道7号線沿いに事業所があります。立地上、日常的に近隣住民と交流する事は難しいが、今年度は「地域交流」に力を入れ、クリーンアップへの参加、花壇を提供していただいたの花づくりなど、利用者と職員が一緒になり取り組んでいます。更に「バスで掛けよう」を企画し、月1回の外出が利用者にとっても喜ばれています。また、ミュージックケア(有資格者)のボランティアの訪問が定期的であり、楽しい時間となっています。利用者の加齢と共に徐々に転倒のリスクが高くなってきているが見守りを強化し、一人ひとりの思い・意向の把握に努めながら、利用者と職員が一緒にゆったり過ごす時間もつくっていきたくと管理者は考えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念をつくり、年間行事計画を計画し、実践している。	理念を基に全員で新年度の目標を設定し、申し送り時に唱和し、共有しながら実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件から、地域住民の方との交流は少ないが、町内会に入会し、町内行事等に参加できるよう努めている。	町内会の行事に参加、多くのボランティアの受け入れ、趣味を活かし創作展示会に出品、歩道のゴミ拾い、町内の花壇の世話など交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内運動会や、お祭りの見学、地域の創作展示会へ作品を出品し、見学に行くなど活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の報告の中で、ご利用者の利用状況や施設の取り組み等を報告し、ご家族や地域の方と話し合い、意見を聞きながらサービス向上に活かしている。	事業所の取り組み内容や、具体的な改善、課題を話し合いながら、サービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、市の取り組みや他事業所の情報などを聞き、サービス向上に役立てている。	毎月、空き状況の情報交換や、グループホーム連絡協議会研修などで連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回身体拘束について学んでいる。夜間以外の施錠は行わないよう努めている。身体拘束しないよう、ご利用者様の身体状況や行動を観察し、ケアしている。	毎月のスタッフ会議などで、一人ひとりの状況を報告し合いながら、拘束の無いケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会にて、虐待防止について学び、全職員が虐待防止のため、注意を払っている。特に、入浴時は全身の観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族に十分な説明を行い、不安や疑問点を解決するように努め、ご理解、納得していただけるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置している。また、運営推進会議や面会時に意見や要望を聞き、運営に反映するようにしている。	受診結果の報告、利用料金納入時などに、日常の状況を話し合いながら、意向、意見を聞き出し、運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やスタッフ会議の中で、意見や提案を聞き、反映させている。	日常的に 提案や意見を出し合い、サービスの向上に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス等にて評価し、やりがいや自己研鑽して働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際を把握し、力量に応じた研修の機会の確保や法人内での勉強会への参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の総会、研修会への参加を行い、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	調査票等やケアマネからの情報を活かし、本人が施設の環境や人間関係に慣れるよう、本人の意見を聞きながら、安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の際、ご家族の要望や不安なことについて話を聞き、入居後も会話をしながら要望等を聞きながら、信頼関係を築いていけるよう取り組んでいる。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームに入居する中で、職員が利用者の間に入り、トラブルなく良い人間関係を築けるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時、都度、連絡をとったり、病院の付き添い等、行えるご家族にはお願いしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バスで出かけよう行事や個別支援で自宅へ出かけたり外出の機会を設けている。	趣味の手芸や、兄弟の面会 行きつけの理髪店への外出など支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係や、見守りの状況を考えながら協力し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族や居宅支援事業所の担当の方とかかわりを持ち、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、ご本人の希望や意向を聞きながらスタッフ会議等で検討している。困難な場合は、ご家族面会時等に本人を交えて話し、意向を聞いている。	家族から生活歴を聞いたり、関わりの中で意向の把握に努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のお話や調査を通して、生活歴や生きがい、これまでのサービス利用について把握するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録にて、一日の過ごし方や心身状態について、情報を共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の様子や会話の中からご利用者の思いを察したり、ご家族の面会時に話を聞き、担当職員がケアチェックを行いそれをもとにカンファレンスを行い、作成している。	計画作成担当者が担当職員より意見を聞き、カンファレンスで話し合い作成されています。2ヶ月ごと及び随時モニタリング・アセスメントが実施されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入し、日々の様子や情報を共有し、実践や見直しについて活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での外出行事後、会話の中で話題にし、楽しい記憶を思い出していただくようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医に受診している。法人内に内科・循環器医院があるため、希望時受診している。	受診には主に職員が付き添うが、利用者によっては家族の協力もあります。結果はカルテや申し送り、連絡ノートで共有し、随時家族にも報告しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、体調管理、受診の付き添いも行い、主治医と情報交換している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院と情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の説明をし、同意を頂いている。ご家族と相談しながら、他事業所との相談や必要な支援を行っている。	看取り指針はないが、主治医・家族・同法人の事業所と連携し、ホームの方針を説明しながら、取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の実施や職員間で確認を行い、急変や事故に備える実践力を見につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、昼夜問わず利用者が避難できる方法を周知している。	訓練実施前には周辺住民にも伝え、町内会長・消防職員の協力を得て、通報・初期消火・避難訓練を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに気をつけ、介助者の感情で言葉かけをしないよう注意するよう努めている。一人ひとりに合わせた対応を心かけている。	一人ひとりの状況を把握し、本人の納得できるような言葉掛け、事例を話し合い共有し、取り組まれています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中から、ご本人の思いや希望を聞き、自己決定できるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の生活パターンは決まっているが、一人ひとりの生活習慣を観察し、可能な限り、安全を考えた希望に添えるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、身だしなみも自分で行えるようこえかけを行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事摂取状態や嗜好に合わせてながら、食事の準備や食事後の片付けを手伝ってもらっている。	嗜好調査を実施、一人ひとりに適した調理内容、季節を感じられるメニューなど、バラエティーに富んだ食事が提供されています。箸・お椀は家庭で使用していたものが持ち込まれています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや栄養バランスは、献立表のカロリー等でおおよそ把握している。食事量や水分量もカルテに記録している。一人ひとりの状態にあった食事形態に合わせ、おいしく食べていただけるよう心がけている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声かけにて行い、介助が必要な方には、介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の申し送りや観察で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの排泄や清潔を維持できるよう支援を行っている。	排泄誘導で拒否者もいなく、用品を上手に使用しながら、自立支援に取り組まれています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便のパターンを把握し、都度、頓服や乳製品で対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回以上入浴している。一人ひとりの体調や移動動作を観察しながら、安全に入浴していただけるよう支援している。	拒否者には職員を変えたり、タイミングをずらしたりして利用されています。「北投石」の入れられている大きな一般浴槽には、併設の事業所の利用者と一緒に入ることもあり、交流の場ともなっています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターン、行動を観察し、心身ともに安心して、眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法や用量について、主治医からの説明と、薬局からの薬カードで確認できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器洗いやテーブル拭き、洗濯たたみ等行ってもらったり、得意な事やレクリエーションを通して楽しんでいただいたり、気分転換を図っていただけるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援や外出レクを実施し、外出の機会を設けている。	日常的な散歩を始め、野外でのカラオケ、外部資源を利用した、月一度の外出も実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、ご希望の家族の方から金品の預かり依頼書の同意を得ている。ご利用者のお金は、施設の金庫に保管管理している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった場合、職員が手伝い電話をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の業務の中で、掃除担当が決められており、清潔を保てるよう行っている。室温、湿度を管理しながら暖房や冷房、湿度管理も行っている。	居用空間は転倒に気を付け、事例を話し合いながら安全・安心に配慮しています。食事の座席の位置は皆が楽しく食事が出来るように支援されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自室で1人で過ごされたり、他利用者の方々と団欒できる機会を設けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んでもらい、なるべくご本人が居心地よく過ごせるようにしている。	居室内の置物などは、本人の目線の位置になど、一人ひとりの要望を聞きながら置かれています。中には大きな温度・湿度計があり随時観察し、調節しながら、居心地良く過ごせる環境づくりに努めています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりがあり、歩行時につかまって歩けるようにしている。転倒予防や、安全に自立した生活ができるよう環境作りに配慮している。		